

研究主題「生活の安定と他者との関係性を育む自立活動の取り組み」

<本校の概要>

本校は小学部、中学部、高等部が設置されている病弱支援学校であり、児童生徒は隣接する「児童心理治療施設」と「児童養護施設」、自宅から通学している。従って、在籍する児童生徒は皆、医師の診断書を有し、なおかつ教育上支援を要する。また、近年の医療の向上により、慢性疾患をもつ児童生徒の多くは各々の地域で教育を受けるケースが多く、その傾向に反するように、本校に在籍する児童生徒の多くは発達障がい、精神疾患、あるいは愛着の形成に問題を抱えるケースが多くなっている。

<令和6・7年度 校内研究 概要>

自立活動をテーマに、令和5年度から継続して研究を実施し、その成果を踏まえる形で、令和6・7年度は『生活の安定と他者との関係性』をテーマに3分科会で事例研究に取り組んだ。

<令和6年度の取り組み>

共通テーマ『生活の安定』で実践。それぞれのグループでの実践では、学校生活・学習活動への姿勢や気持ちの表出に成長が見られた。岩手大学 鈴木恵太准教授を助言者としてお招きし、『実行機能の調整』の重要性を説かれた。

<令和7年度の取り組み>

主要テーマを『他者との関係性』として、令和6年度の、それぞれのグループにおける成果と課題を踏まえた学習活動の調整と指導支援の検討に取り組んだ。

分科会① 意欲の向上グループ

- ・ 楽しく前向きに取り組める活動の工夫
- ・ 考えながら学習に取り組む工夫
- ・ 授業記録の検証

分科会② 生活の安定グループ

- ・ 学校・家庭・施設間の連携と共有
- ・ 本人と保護者の願いとの距離感の調整
- ・ Co-MaMe等を活用した行動の枠組み設定

分科会③ 自己表現グループ

- ・ 適切に伝えるための表現の獲得
- ・ 少人数集団での自己表現活動
- ・ ビデオによる授業検証

<愛着障がいへの着目>

今年度の本校主催の講演会では、福井大学教授 友田明美先生を講師としてお招きして、「子どもの脳を傷つけない子育て～マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ～」と題し、ご講演をいただいた。その中からいくつかのスライドを紹介させて頂く。

講演では、「脳の可塑性により遅れの回復の可能性が示され」ることをお話し頂いた。このお話しを受け、本校研究でも、教育的関わりによる発達支援の重要性を前提に取り組んできた。各グループでの取り組みもご覧いただきたい。

マルトリートメントの定義

“避けたい子育て”

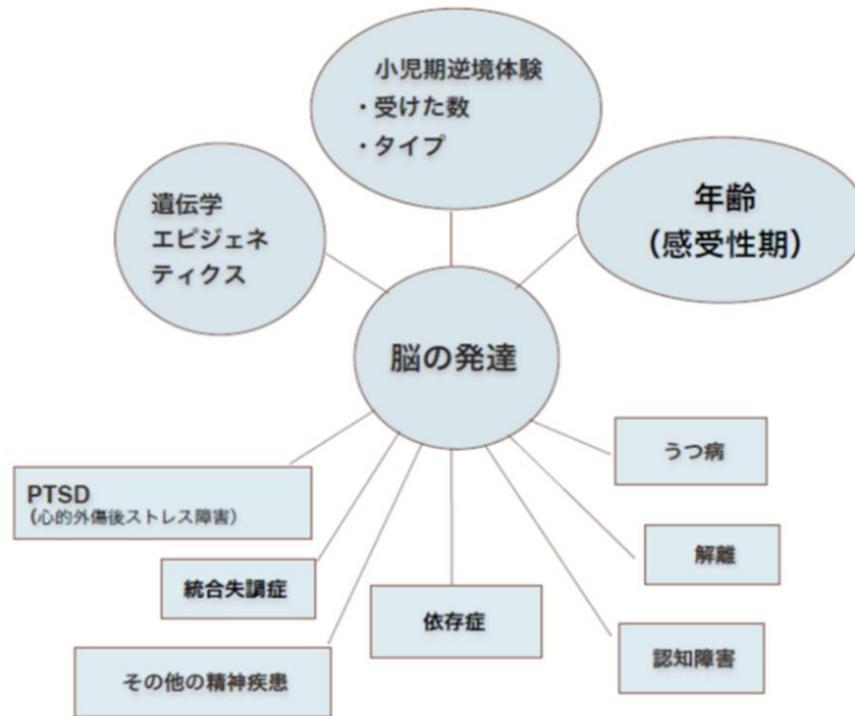
虐待とは言い切れない
大人から子どもに対する
よくない関わり

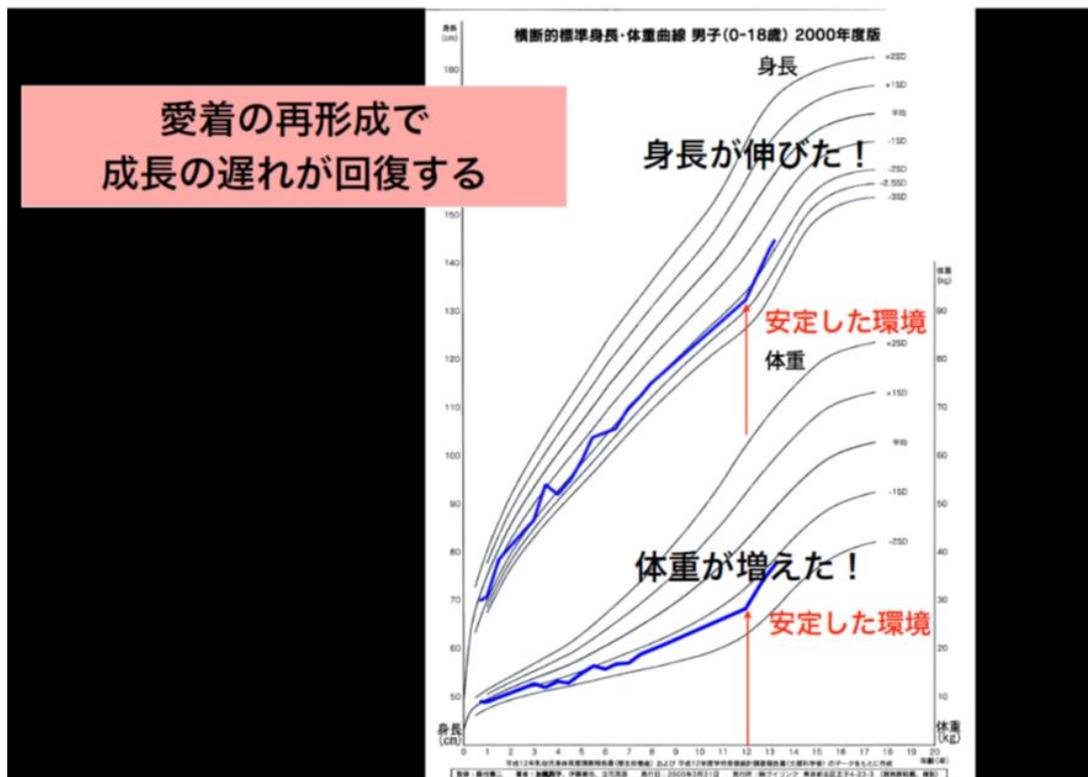
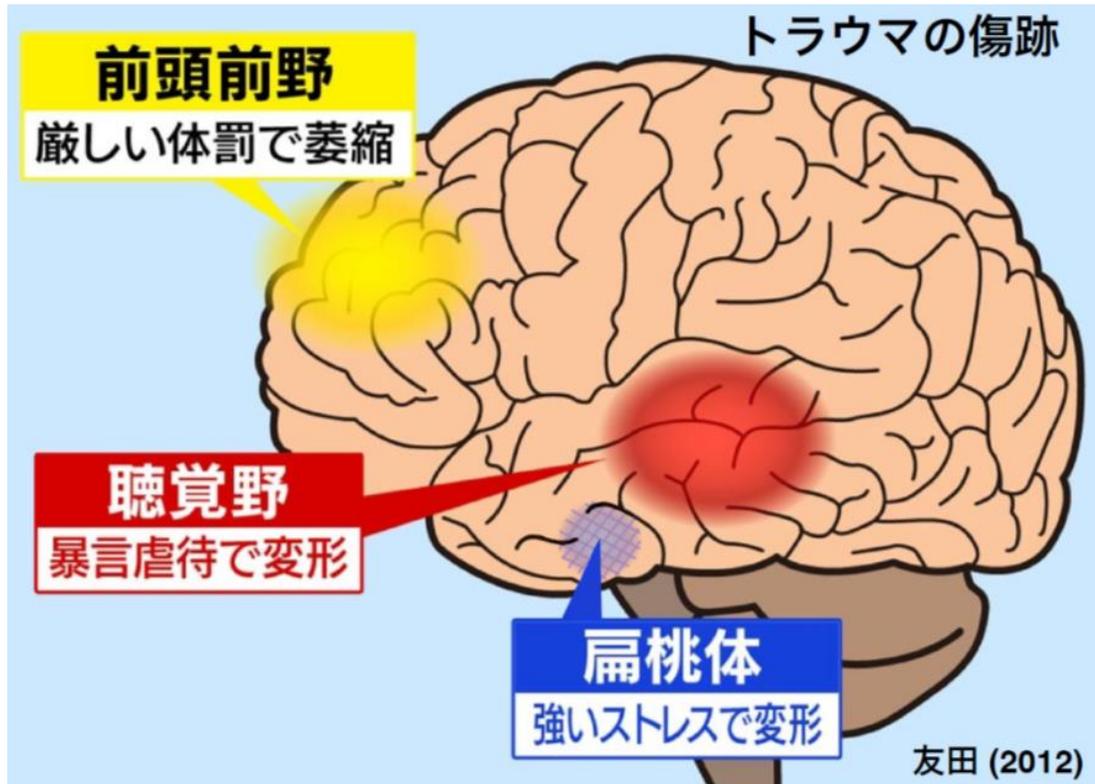
身体的虐待
性的虐待
心理的虐待
ネグレクト

- ・ 全成人の4分の1が小児期に身体的虐待を受けたと報告
- ・ 女性の5人に1人、男性の13人に1人が小児期に性的虐待を受けたと報告
- ・ 生涯にわたり個人の身体・精神の健康を損ない、国の経済発展と社会成長を遅らせる

World Health Organization
Child maltreatment
Fact sheet N°150
Updated December 2014
WHO Fact Sheet revised (2016)

小児期マルトリートメントから精神疾患に至るプロセス





愛着障害（12歳男児） 脳活動の回復

